



撮影 下田



天竜川上流における分布

小波川合流点の1カ所で確認した。日当たりのよい湿性に生育する。天竜川上流では大変珍しい種である。

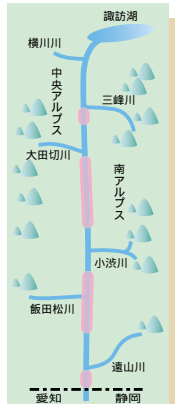
生活型：1年草

分布：本州（関東以西）～南西諸島

形態等：高さ20～60cm。葉は光沢のない白緑色で、断面は扁平、長さ4～15cm、幅5～8mm。5～6月に、枝の先に淡い緑色の花序を出す。花序は円柱形で、長さは3～6cm、幅5～8mm。



撮影 EAC



天竜川上流における分布

天竜村水神橋から三峰川合流点にかけて確認した。日当たりのよい堤防草地等に生育する。今後はさらに増加する可能性がある。

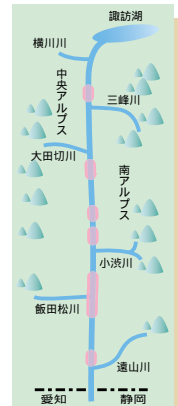
生活型：多年草

分布：帰化植物、北アメリカ南部～中央アメリカの原産。

形態等：茎は株になって直立し、高さ50～120cmになる。実を結ぶ頃には葉とともに赤く色づく。葉は長さ10～30cm、幅2～5mm。花期は10～11月、小花序には長い毛がありよく目立つ。



撮影 EAC



天竜川上流における分布

遠山川合流点から伊那市にかけて確認した。乾燥した砂れき地や草地に生育する。

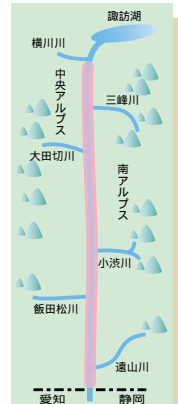
生活型：多年草

分布：北海道～九州

形態等：高さ30～100cm。地下茎をのびて繁殖する。茎は直立して、ややかたい。葉は幅広い線形で長く、基部は円形。花期は8～10月、茎の先にややまばらに枝を出し、密に小穂をつけて、花序をつくる。花序は長さ20～30cmで、紫色を帯びる。



撮影 今井



天竜川上流における分布

全域で確認した。個体数が多い。日当たりのよい堤防草地等に生育する。

生活型：1年草

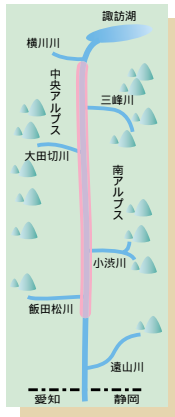
分布：北海道～九州

形態等：高さ50cmほどになる。茎は直立するが下部は少し曲がる。葉は茎にねじれて付き、葉身は細長く、両面に白くて柔らかい毛がある。花期は5～7月、花序を茎の先にだし、淡い緑色の小穂を多数つける。



撮影 今井

生活型：1～2年草
 分布：帰化植物、アフリカ～ユーラシア大陸の原産
 形態等：茎は高さ30～80cm。葉は長さ10～20cm、幅3～6cmで、まばらに軟毛が生える。花序は長さ10～20cmで先が垂れ、枝分かれした先に小花を1～4個つける。

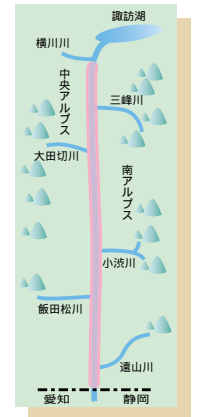


天竜川上流における分布

飯田市水神橋より上流のほぼ全域で確認した。個体数は多い。半日陰の草地を中心に群生する。



撮影 EAC



天竜川上流における分布

全域で確認した。湿性から比較的乾燥した場所までと、生育地の幅は広い。



撮影 EAC

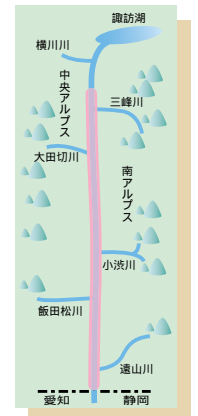


天竜川上流における分布

飯田市時又、豊丘村芦部川合流、中川村坂戸橋の3ヶ所で確認した。水際から少し離れた砂れき地に生育し、流れに沿って細長く群生している様子が見られる。



撮影 EAC



天竜川上流における分布

箕輪町新箕輪橋より下流のほぼ全域で確認した。日当たりのよい乾燥した砂れき地に生育する。

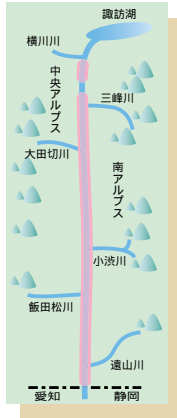
生活型：多年草
 分布：北海道、本州（近畿以北）
 形態等：茎は高さ1～1.5m。葉は長さ10～30cm、幅3～9mm、両面とも白緑色でざらざらする。花期は7～9月、紫色を帯びた小穂を密生する。夏期を過ぎると白色の毛のみが目立つようになり、花序全体が白色に見える。和名は銀白色の毛が目立ち垂れ下がる姿を僧侶の拂子に見立てた。

生活型：多年草
 分布：帰化植物、南アフリカ原産
 形態等：茎は高さ60～120cm、根元から立ち上がり大きな株になる。葉は長さ40～60cm、幅1.5～2.0mmと細長く、弓形にしなだれて先が地面まで垂れ下がる。花期は8～10月、花序は長さ20～40cmで、小穂は灰緑色ときに紫色を帯びる。砂防や緑化用に輸入された。英名「ウィーピングラブグラス」。



撮影 今井

生活型：多年草
分布：本州～九州
形態等：茎は高さ30～80cm、根元から立ち上がり株をつくる。葉は大部分が根元近くから出て、長さ20～40cm、幅2～7mm。花期は8～10月、花序は直立し長さ20～40cm、赤紫色を帯びて光沢がある。地面に根付く力は強く、引いてもなかなか抜けない。



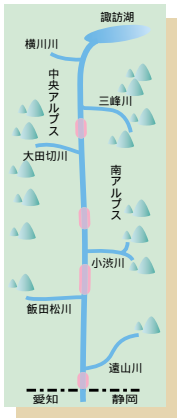
天竜川上流における分布

全域で確認した。日当たりのよい乾燥した場所に生育する。



撮影 今井

生活型：多年草
分布：帰化植物、ヨーロッパ～西アジア原産
形態等：茎は高さ30～90cm、株立ちする。全体に白色の短毛を密生して灰白色を帯び、ピロードのような感触がある。葉は長さ10～30cm。花期は6～8月、長さ5～16cmの花序が直立し、小穂は緑白色ときに赤紫色を帯びる。



天竜川上流における分布

天竜村水神橋から駒ヶ根市北の城橋にかけて点々と分布する。日当たりのよい堤防草地等に生育する。



撮影 清水

生活型：多年草
分布：北海道～九州
形態等：茎は高さ90～180cm、長い根茎から1本ずつ直立する。葉は長さ10～35cm、幅3.5～14mmでやや厚く、表面は淡い緑色、裏面はやや青白い。花序は長さ15～25cm、小穂は黄緑色のちに黄褐色になる。

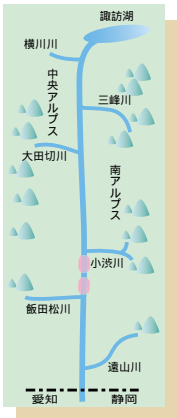


天竜川上流における分布

箕輪町新箕輪橋の1カ所で確認した。水際の湿性地に生育する。



撮影 今井



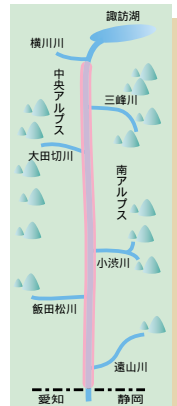
天竜川上流における分布

生活型：多年草
分布：北海道～南西諸島
形態等：茎は高さ30～80cm。葉は長さ20～50cm、幅7～12mmでざらつく。花期は5～6月、花序は長さ10～20cm、銀白色の毛におおわれる。銀白色の穂が群生する様子は美しい。

飯田市阿島橋、松川町台城橋で確認した。個体数は少ない。日当たりのよい堤防草地等に生育する。

オギ *Miscanthus sacchariflorus*

イネ科



生活型: 多年草
分布: 北海道~九州
形態等: 地下に長く太い根茎を伸ばし、そこから高さ1~2.5mの茎が1本ずつ直立する。葉は長さ20~80cm、幅1~3cm。花期は9~10月、花序はたくさんの枝からなり、銀白色の長い毛のある小穂をたくさんつける。
類似種: ススキ (125p)

天竜川上流における分布

全域で確認した。水際から一段あがった湿った微高地に生育する。秋、たくさんの銀白色の穂が風になびく様子を見ることができる。

ススキ *Miscanthus sinensis*

イネ科



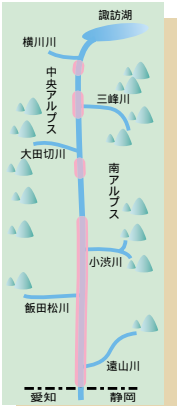
生活型: 多年草
分布: 北海道~南西諸島
形態等: 太く短い根茎があり、茎は高さ0.6~2.0m、根元から立ち上がり大きな株になる。葉は長さ20~60cm、表面の中央脈は白色で目立つ。花期は8~10月、花序はたくさんの枝からなり、白色または淡い紫を帯びた長毛のある小穂をたくさんつける。
類似種: オギ (125p)

天竜川上流における分布

ほぼ全域で確認した。日当たりのよい乾燥した草地に生育する。天竜川ではオギの方が多い。

ヌカキビ *Panicum bisulcatum*

イネ科



生活型: 1年草
分布: 北海道~南西諸島
形態等: 茎の節から発根しながら、ほふく枝を出して地表をはい回り、よく分枝する。葉は長さ5~30cm、幅5~12mmで無毛。花序は長さ15~30cm、枝は横に広がり小穂がまばらに垂れ下がる。
類似種: オオクサキビ (126p)

天竜川上流における分布

ほぼ全域で確認しが、下伊那地域に多い。水辺の湿性に生育する。

オオクサキビ *Panicum dichotomiflorum*

イネ科



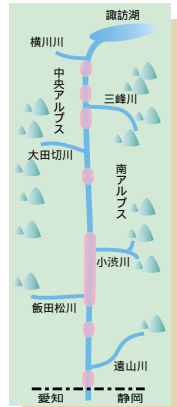
生活型: 1年草
分布: 帰化植物、北アメリカ原産。
形態等: 茎は高さ40~100cm、多くは斜めに立ち、株立ちする。葉は長さ20~40cm、幅8~15mmで無毛。花序は長さ12~25cm、枝は斜め上方に向けて立ち先は垂れない。
類似種: ヌカキビ (126p)

天竜川上流における分布

泰阜村檜橋から辰野町城前橋にかけての所々で確認した。日当たりのよい砂れき地等に生育する。



撮影 EAC



天竜川上流における分布

天竜村天竜川橋から辰野町新樋橋にかけて確認した。日当たりのよい草地等に生育する。

生活型：多年草

分布：北海道～南西諸島

形態等：茎は直立し高さ30～80cmの大きな株をつくる。葉は長さ30～60cm、幅5～8mm、花序は長さ10～15cmで、暗い紫色のブラシのようになる。強い草で引いてもなかなか引き切れない。



撮影 今井



天竜川上流における分布

中川村飯沼橋、箕輪町の4ヶ所で確認した。高水敷の砂地に生育する。天竜川上流部では生育環境が少ないことからあまり見られない。

生活型：多年草

分布：北海道～南西諸島

形態等：太く長い根茎より茎が直立し、高さ1～3m。葉身は長さ20～50cm、幅2～4cmでふつう途中から垂れ下がる。花期は8～10月、茎の先に茶褐色の花序をつける。

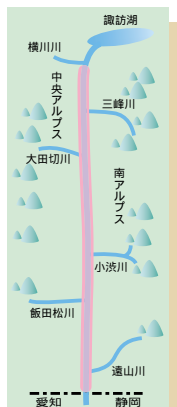


撮影 EAC

生活型：多年草

分布：北海道～九州

形態等：長い根茎から茎が直立し、高さ70～180cm。葉は長さ15～30cm、幅8～15mmでやわらかい。花期は5～6月、花序は直立し長さ5～25cmで、小穂は紫色を帯びた白緑色。和名はヨシに似ているが全体に細く、やわらかい草質であることによる。

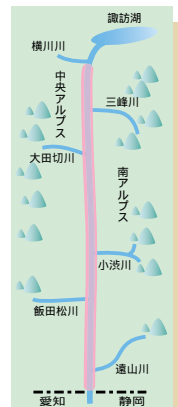


天竜川上流における分布

全域で確認した。個体数は多い。水際の湿性地に生育する。



撮影 EAC



天竜川上流における分布

全域で確認した。個体数は多い。水際の砂れき地に生育する。

生活型：多年草

分布：本州～南西諸島

形態等：茎は高さ1.0～1.5mになる。走出枝を出し、地上をはいまわる。葉は長さ10～30cm、幅は2～3cm、灰緑色で手ざわりは堅め。花期は8～10月、花序は茎の先につき紫褐色で小穂を密につける。和名はつるのよう^{そうしゅうし}に走出枝を伸ばして増えることからつけられた。



撮影 EAC



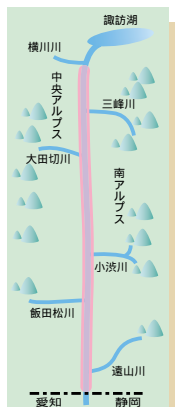
天竜川上流における分布

飯田市時又の1カ所で確認した。日当たりの良い堤防草地に生育する。天竜川上流部でも今後増加する可能性がある。

生活型：多年草
 分布：帰化植物、地中海沿岸原産
 形態等：茎は太く、根元から立ち上がり大きな株となる。高さ0.8~1.8m。葉は長さ20~60cm、幅1~2cm。花序は高さ20~50cm、枝は広く開きまたは垂れ下がり、上半部に小穂をつける。戦後急速に増え、西日本で増加している。



撮影 今井



天竜川上流における分布

全域で確認した。日当たりの良い草地に生育する。

生活型：1年草
 分布：帰化植物、ヨーロッパ~西アジアの原産
 形態等：茎は高さ10~70cm、直立または斜めに立ち弱々しい。葉は白っぽい緑色、長さ2~15cm、幅0.5~2mm。花序は長さ10~20cmで、淡い緑色。しばしば大きな群落をつくる。

河川の増水と植物

河辺は、植物の生育にとって、たいへん厳しい環境であるといえます。雨がたくさん降れば増水し(写真右下)植物が流されてしまうばかりでなく、中洲の形が大きく変わってしまうこともあります。また、夏は強い日差しに照らされ、河原はすっかり乾燥してしまうこともあります。

このように環境の変動が著しい河辺で、植物たちは様々な工夫をして生活しています。ここで、ツルヨシ(イネ科)を例に見てみましょう。

ツルヨシは、ヨシと近縁な植物で、天竜川上流ではごくふつうに見られる大型の多年草です。河辺の中でも最も増水の影響を受けやすい場所に群生します。なぜ、ほかの植物が生えることができないような、環境の変動の著しい場所に生育できるのでしょうか？

ツルヨシをよく観察すると、根元からたくさんのランナーと呼ばれるつる(走出枝)を出していることに気がつきます。このランナーから、ツルヨシは新たな株を作ることができるのです。親株からでたランナーは、時には10mを越えることもあり、親株が流されても、どこかに残ったランナーによって、すばやく復活できるわけです。また、茎がしなやかなので、多少の増水では折れにくくなっています。このように、ツルヨシは、河辺の環境にうまく適した特徴を持つことにより、たびたび起こる増水に負けないで生育できるのでしょう。

ツルヨシだけでなく、カワラヨモギやカワラサイコなど、河辺に特有な植物たちも、それぞれ様々な工夫をしながら変動の激しい環境で生活しています。



通常時の天竜川(飯田市阿島)



増水時の天竜川(同所)

しかし、増水がなくなってしまう、河辺が安定した環境になってしまったら、どうなるでしょうか？ おそらく、時間の経過とともに、次第に樹木の勢いが強くなり、やがては森林になるでしょう。ツルヨシや、カワラヨモギ、カワラサイコなど、河辺に特有な植物たちは、増水によってたびたび^{かくらん}攪乱されることにより、生育し続けることができるのです。

(関岡裕明)



走出枝を伸ばすツルヨシ

マコモ *Zizania latifolia*

イネ科



撮影 清水

生活型：多年草、抽水植物
 分布：北海道～南西諸島
 形態等：太く長い根茎があり、茎は株立ちし、高さ1～2.5mになる。葉は大部分が根元から直立し、長さは50～100cm、幅2～3cm。花期は8～10月、花序は長さ40～60cmで節から枝を出し、小穂をつける。細いタケノコ状にふくれた茎の下部を「マコモ筍」と称して中華料理などで用いられる。



天竜川上流における分布

駒ヶ根市小鍛冶橋から辰野町新樋橋にかけて所々で確認した。個体数は少ない。水際の中水や湿性に生育する。

ミクリ *Sparganium erectum*

ミクリ科



撮影 EAC



天竜川上流における分布

2カ所で生育を確認した。水際の中水や湿性に生育する。1989年レッドデータブックでは危急種、1997年レッドリストでは準絶滅危惧種とされているため図示は避けた。

生活型：多年草、抽水植物
 分布：北海道～九州
 形態等：茎は直立し、高さ60～200cm、基部から7～8枚の葉がのびる。葉は長さ50～150cm、幅7～20mmで、断面は三角形をしている。水底の泥中に根茎をのばして増える。花期は6～9月、茎の上部が花序となる。水中茎を干して編み、三稜簾をつくる。



撮影 今井

生活型：多年草、抽水植物
分布：北海道（少ない）～南西諸島
形態等：高さ1.5～2m。葉は幅6～15mmとガマよりやや細く、手ざわりはかたい。花期は7～8月。雄花群（長さ10～30cm）と雌花群（長さ8～25cm）が離れてつき、間に長さ1.5～7cmの軸が見える。熟した花序は径1～5cmで、ガマより細く見える。
類似種：ガマ（133p）、コガマ（134p）

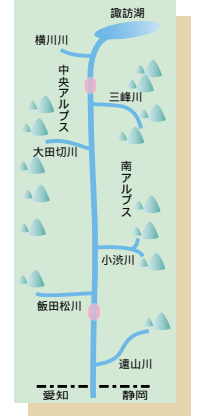


天竜川上流における分布

飯田市時又・阿島橋、辰野町相合橋の3ヶ所で確認した。高水敷の水たまりや緩い流れの水中に生育する。



撮影 EAC



生活型：多年草、抽水植物
分布：本州～九州

形態等：高さ1～1.5m。全体的にガマより小さい。葉も幅5～10mmと細い。花期は7～8月、雄花群は長さ3～9cm。雌花群は長さ3～12cmで雄花群に接する。熟した果序は径1～2cm。

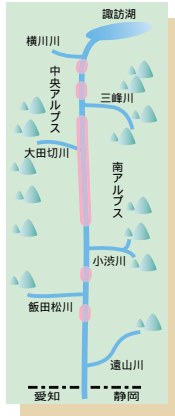
類似種：ヒメガマ（133p）、ガマ（133p）

天竜川上流における分布

飯田市時又と箕輪町箕輪橋の2カ所で確認した。高水敷の水たまりや緩い流れの水中に生育する。



撮影 清水



天竜川上流における分布

飯田市時又から辰野町城前橋にかけての所で確認した。高水敷の水たまりや緩い流れの水中に生育する。

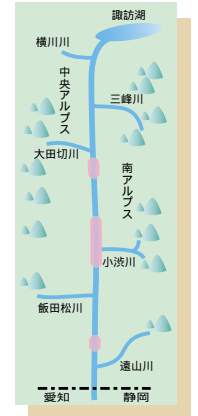
生活型：多年草、抽水植物
分布：北海道～九州
形態等：茎は高さ1.5～2mで直立する。太い地下茎が泥中を横走して繁茂する。葉は長さ1.5～2.5m、扁平でやわらかい。花期は6～8月、円柱状の花序を出す。淡黄色で長さ8～10cmの雄花群直下に、接して雌花群をつける。受粉後は長さ7～20cm、径2～3cmの茶褐色の穂になる。ヒメ
類似種：ガマ（133p）、コガマ（134p）



撮影 EAC

生活型：多年草
分布：本州～南西諸島

形態等：茎は高さ40～80cm。葉は幅4～10mm。小穂は4～6個、柄があって垂れ下がり、円柱形で長さ3～6cm、上方の小穂は基部にやや細かい雄性部がある。和名は小穂の下垂するのを鳴子に見立て、またよく田のあぜに生えることから。



天竜川上流における分布

泰幸村檜橋から駒ヶ根市天竜大橋にかけて所々で確認した。湿った草地に生育する。



撮影 今井

生活型：多年草
分布：北海道～九州
形態等：高さ50～100cmになる。根茎は短く株立ちし、長い走出枝を地中に伸ばし繁殖する。葉は幅4～8cm、濃緑色で強い。花期は5～6月で、茎の先に雄性小穂、その下に雌性小穂を4～5個つける。大正時代頃までは笠や蓑をつくる材料として用いられていた。



天竜川上流における分布

駒ヶ根市天神大橋から辰野町新橋にかけての所々で確認した。個体数は少ない。地表面や地中に水が流れている場所を好む。



撮影 今井



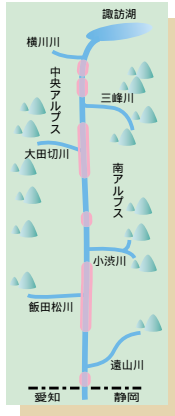
天竜川上流における分布

天竜村水神橋から飯田市水神橋にかけて確認した。湿性に生育する。



撮影 今井

生活型：多年草
分布：北海道～九州
形態等：茎は高さ30～60cmで、走出枝を出し群生する。葉は幅3～5mmで白みを帯びた緑色。花期は5～6月、小穂は上方の2～4個が雄性で線形、下方の2～3個が雌性で円柱形、長さ2～4cm。和名は果包にピロード状の毛があるためといわれる。

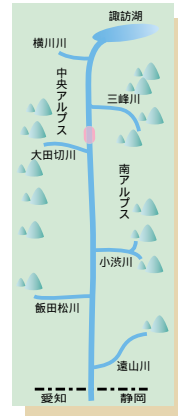


天竜川上流における分布

ほぼ全域で確認した。水辺に近い湿性地あるいは砂地に生育する。



撮影 松田



天竜川上流における分布

駒ヶ根市の1カ所で確認した。河辺の草地に生育する。天竜川上流部では非常にまれな種である。

生活型：多年草
分布：本州（長野県、関東地方）
形態等：茎は高さ20～40cm、地下茎を長く伸ばし、まばらに株立ちする。葉は幅2.5～3.0mm、質は薄く淡い緑色。花期は5～6月、枝先に小穂を8～10個つけ、赤栗褐色で長さ5～8mm。



撮影 今井



生活型：多年草

分布：本州～九州

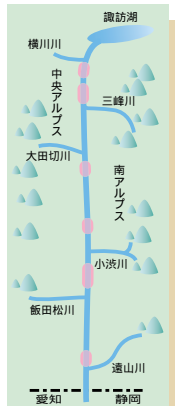
形態等：茎は高さ10～30cm、細長い地下茎がある。葉は幅2～5mm、花期は5～6月、花序は長さ3～8cm、多数の小花が水平に開出してつき、黄褐色で光沢がある。

天竜川上流における分布

天竜村天竜橋、泰阜村長瀬橋、飯田市JR天竜川橋の3ヶ所で確認した。日当たりの良い裸地に生育する。



撮影 EAC



天竜川上流における分布

泰阜村南宮橋から箕輪町中井取水堰にかけて所々で確認した。日当たりの良い湿性に生育する。

生活型：多年草

分布：北海道、本州中部以北

形態等：茎は高さ30～60cm、鋭い三稜があり、株を作る。葉は幅3～7mm、花期は5～7月、花序は長さ3～6cm。

貴重な植物

ひとくちに貴重な植物といっても、その理由はさまざまです。理由のなかで最も一般的なものは、個体数が少ないことではないでしょうか。個体数が少ないということは、その地域において絶滅のおそれが高いことを示していると考えられます。

しかし、単に個体数が少ないといっても、その背景はいろいろです。もともと生育地が限られている場合や、ほかの地域では普通にみられるものの天竜川流域や長野県では少ないといった場合もあります。また、近年急激に減少した場合なども考えられます。ここで天竜川でみられるいくつかの貴重な植物を取り上げ、個体数の少ない理由について考えてみましょう。



ホソバコンギク（キク科）

増水すると水をかぶるような川岸の岩場に生育しています。川岸の岩場といっても、川幅の広い天竜川上流には生育しておらず、長野県では川幅が狭く岩場の多い飯田市以南の天竜川と木曾川の一部にしか分布していません。この植物の場合は生育地そのものが限られている上に、近年は生育に適した環境がダムにより水没することが多くなっています。

タコノアシ（ユキノシタ科）

近年急速に減少している植物のなかに、タコノアシという植物があります。名前のユニークなこの植物は、休耕田や造成地内の水溜まりなどで、ごくまれに確認されます。しかし、本来は河川の氾濫原のように、定期的な攪乱が起こり、比較的肥えた泥土が堆積する場所にいち早く侵入する植物であったと考えられます。この植物の減少には、氾濫原そのものが減少していることや、河川における氾濫の頻度や規模が変化したことなどが大きく影響していると思われます。



アサマスゲ (カヤツリグサ科)

やはり河川の氾濫原を中心に生育し、個体数の限られた植物に、アサマスゲというスゲがあります。和名が浅間山に由来するこのスゲは、現在天竜川の一ヶ所を含め、長野県内ではわずかに二ヶ所しか生育地が確認されていません。花が目立たず、あまり注目されることもないこうした植物は、知らない間に長野県から姿を消していくことも十分に考えられます。



カワラノギク (キク科)



天竜川の一部に生育しています。カワラノギクの従来の分布は、東海地方以東の太平洋側であるため、現在この植物が東海以東のカワラノギクと同じものかどうかを確認しているところです。生育場所は関東のカワラノギクと類似しているのですが、この仲間を分類する上で重要な冠毛の特徴が東海以西に分布するヤマジノギクと東海以東に分布するカワラノギクとのちょうど中間的な形になっています。こうした植物は稀少的価値だけではなく、分類・地理学上

もたいへん貴重な植物といえます。分布地が限られもともと個体数も少ない上、洪水の減少により生育地である日当たりの良い乾燥した場所も少なくなってきています。

川岸の岩場や氾濫原とともに、やはり河川周辺にしかみられない環境が、河原の砂れき地です。カワラナデシコやカワラアカザ、カワラサイコ、カワラハハコ、カワラヨモギ、カワラニガナなど、和名に「カワラ」とつく植物の多くは砂れき地に生育しています。またこうした植物のほとんどが、現在個体数の減少している植物なのです。この原因には、河川の氾濫様式の変化のほか、河川の富栄養化や帰化植物の侵入なども関係しているのではないのでしょうか。

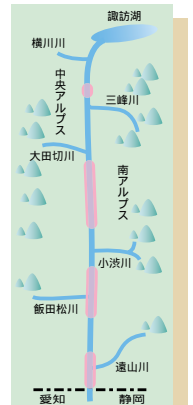
河川周辺だけに生育する植物ではありませんが、現在急激に個体数の減少しているツメレンゲやイヌノフグリ、オミナエシ、ヨメナ、ミクリなども天竜川の周辺で確認されています。(小澤正幸)

チャガヤツリ *Cyperus amuricus*

カヤツリグサ科



撮影 今井



生活型：1年草

分布：本州～九州

形態等：茎は高さ20～60cm。葉は幅2～6mm。花期は8～9月、小穂は長さ7～12mm、幅1.5～2.0mmでやや幅広く赤褐色を帯び、途中から枝分かれしない。

天竜川上流における分布

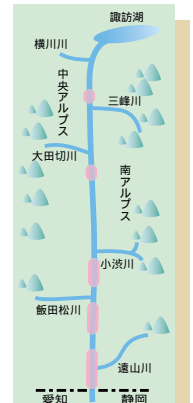
天竜村水神橋から箕輪町新箕輪橋にかけて確認した。日当たりの良い砂地に生育する。

タマガヤツリ *Cyperus difformis*

カヤツリグサ科



撮影 EAC



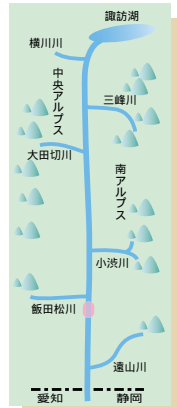
生活型：1年草

分布：北海道～南西諸島

形態等：茎は高さ15～40cmでやわらかい。葉は幅2～5mm。花期は8～9月、花序は幅7cmにもなる。小穂は密な球状となる。

天竜川上流における分布

天竜村水神橋から伊那市新水神橋にかけてほぼ全域で確認した。日当たりの良い湿性に多い。



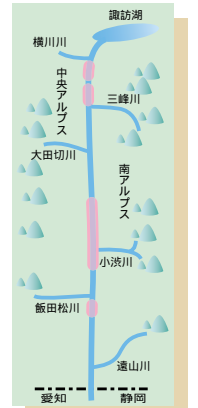
生活型：1年草

分布：北海道～九州

形態等：茎は高さ20～70cm、葉は幅2～8mm、花期は8～9月、花序はやや大型で長さ5～20cm、枝を出す。小穂は線形やや扁平で、長さ5～10mm、濃い赤紫褐色。全草をもむと、レモンのような香りがする。

天竜川上流における分布

飯田市時又の1カ所で確認した。日当たりの良い湿性地に生育する。



生活型：多年草、抽水植物

分布：北海道～南西諸島

形態等：茎は高さ50～100cm、三稜形で幅2～7mm、花期は7～9月、花序は茎の上部につき、短い柄を出して4～15個の茶褐色の小穂をつける。

天竜川上流における分布

飯田市時又から辰野町城前橋にかけての所々で確認した。水際の湿性地に生育する。



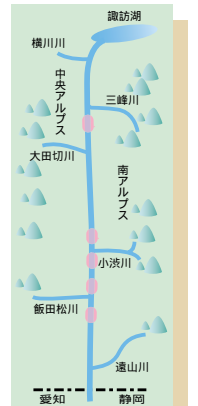
生活型：1年草

分布：北海道～南西諸島

形態等：茎は高さ10～40cm、小さい株をつくり、斜上または基部が倒れる。葉は幅1～3mm、花期は7～9月、小穂は花穂の中軸に開出してつき、扁平で長さ1～2cm、赤色を帯びる。

天竜川上流における分布

飯田市時又と駒ヶ根市天竜大橋の2カ所で確認した。日当たりの良い湿性地に生育する。



生活型：多年草

分布：北海道～九州

形態等：茎は高さ1～1.5m、丸味を帯びた三稜形でかたい。葉の長さは30～40cm。花期は夏～秋、1～4個の花序がつき、枝分かれた先に1～5個の茶色の小穂をつける。和名は花序が油色を帯び、また油のにおいがあるため。

天竜川上流における分布

飯田市時又から伊那市殿島橋にかけての所々で確認した。湿性地に生育する。



撮影 今井

生活型：多年草、抽水植物
分布：北海道～九州
形態等：茎は高さ0.7～1.5m、三稜形で革質。地下に根茎が発達する。葉は長さ30～50cm、幅5～12mm、濃緑色でかたい。花期は5～8月、茎の先に茶褐色の小穂がつく。



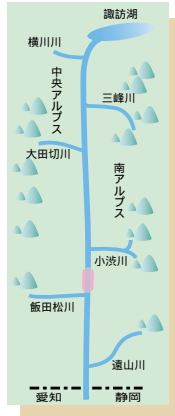
天竜川上流における分布

飯田市時又、伊那市殿島橋の2カ所で確認した。浅い水中や湿性に生育する。抽水性の植物で近年少なくなってきた。



撮影 今井

生活型：多年草
分布：北海道～南西諸島
形態等：高さ20～40cm。越冬する葉は地際に生え長さ約10cmの広披針形で、緑色を保つ。翌年成長する葉は花茎に数枚つき、線形でつやがある。4～8月、茎の上部に花序を出し、多数の淡紅色の小さな花がらせん状に並ぶ。



天竜川上流における分布

飯田市阿島橋、喬木村壬生沢川合流の2カ所で確認した。日当たりの良い草地に生育する。